

## 『ZAITEN』葛西名誉会長の実態！シリーズ⑨

# 残土の処分先が確定しているのは約2割 「生活破壊が起こる」「死活問題」

J R 東海の説明では、（長野県大鹿）村の（リニア）トンネル工事では、約300万立米という東京ドーム約3杯分もの膨大な建設残土が発生し、それを運ぶダンプカーなどが1日1350～1735台、村を10年間走る。粉塵、騒音、振動、排気ガス、交通事故や観光客減少に不安を抱く住民は多く、「生活破壊が起こる」と幾度もの住民説明会では納得できない声があがっていた。

13年10月、J R 東海は主催した住民説明会で住民に「地元の理解がなければ着工しない」と約束した。だが昨年4月、住民は驚く。建設残土を運ぶための道路改良等に関する住民説明会で突如「住民が理解したかどうかは事業者が判断する」と言葉を変えたのだ。

そして昨年10月14日、J R 東海は全村説明会で、やはり住民から疑問や懸念の声があがったのに、閉会后、記者団に「住民理解は得られた」と発言した。

リニアの品川～名古屋間286<sup>キロ</sup>のうち、じつに246<sup>キロ</sup>がトンネルとなるため、全区間で東京ドーム50杯分に相当する約5700万立米の残土が発生するが、その処分先が確定しているのは約2割に過ぎない。

南アルプスの東端に位置する山梨県早川町。リニア関連の工事車両が1日最大900台通行することになる県道37号線は狭いうえに、場所によっては、片側がほぼ垂直の山肌、もう片側が切り立つ崖であり、**拡幅するには山を崩すしかない**。

…（略）…現在、防砂ダム建設などに携わるダンプカーは、無線交信しながら37号線の一部膨らんでいる待機所で停車し相手を通すことで交互通行を可能にしているが、リニア工事での1日最大900台のダンプで可能なのか。地元のある温泉業者はこう心配する。「**工事は物理的に不可能**。37号線を拡幅しないでトンネル掘削すれば、1日中残土を運ぶダンプの大渋滞が起き、静かな環境を目当てに逗留してくれるお客さんはもう来てくれない。死活問題です」